

千葉が好き、ジェフが好きだから——。MF羽生直剛(37)は今シーズンを前に、J1のFC東京からJ2のジェフユナイテッド市原・千葉に完全移籍した。日本代表でも指揮を執ったイビチャ・オシム元監督(75)のもと、ジェフでもジャパンでも活躍した大ベテランが、10シーズンぶりに古巣へ復帰。37歳にして新たな挑戦を決断した理由、そしてチームの8年ぶりのJ1昇格にかける思いを聞いた。



J1の遺伝子を注入し 昇格へ!

企画・取材・文 江戸川大学「yell sports 制作チーム」
江戸川大学下記ゼミ所属の学生たちが「yell sports 千葉」で企画・取材・文を担当する連載企画。
社会学部現代社会学科レジャー・スポーツマネジメントコース 広岡黙ゼミ
社会学部経営社会学科スポーツビジネスコース 小林至ゼミ
メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科 新聞出版・文筆力領域



3月11日(土) vs 名古屋グランパス @ フクダ電子アリーナ ジェフ復帰後のホームゲーム出場

—— 10年ぶり復帰のオフアーを受け、すぐに答えは出せなかったと聞きました。

羽生 ジェフに恩返しをしたい気持ちもありましたけど、力になれなかったら意味がないと思った。FC東京からも「残ってくれ」と言われていたし、悩みましたね。最後は、自分が納得するだけのチャレンジをしてみたいというか、そういう思いで決断しました。

—— 実際にチームに合流して感じることや、昔との違いなどは?

羽生 僕はずっと市原で練習していたので、この蘇我の練習場を見た時は、J1のクラブと比べても、そんな色ない施設だなと思った。メンバーも大きく変わった。別のチームに入ると感じることも多かったんです。変わっていないところは、東京よりもチームが地域に密着しているというところがありますね。ご飯を食べた。聞いても声を掛けて頂くことが増えました。

—— ジェフは今年でJ2の8シーズン目を迎えます。

羽生 どうにかして元いた場所に戻すという作業を、みんなと一緒にやりたい。長い間J2にいたことで、

—— 37歳の今も第一線でプレーするには並大抵のフィジカルとメンタルではないと思います。

羽生 自分は年をとってもベースは走る選手。フィジカルは、こういう

—— 復帰に際して「ジェフの遺伝子が自分にはある」という言葉が印象的でした。

羽生 純粹に僕は千葉が好きだというのと、ジェフは本来「スター選手はいない中でハードワークしよう!」という人が集まって、みんなで行って、みんなが攻めて、みんなが守る。それでJ1を戦っていた。技術や戦術の前に、サッカーに対する強い気持ち、走り抜くメンタリティー、それを強調していたクラブだったと思う。クラブを愛しているとか、クラブのために戦いたいか、犠牲心だったりとか。そういうのを持っているという意味の遺伝子が、僕の体に染み付いている、と。

—— 強い気持ち、走り抜くメンタリティー、クラブ愛が僕に染み付いている

派手さよりゴールに向かうプレー 勝つために団結して強い塊に

ところが落ちてきたなど感じることもありますが、こういう部分は思いついて捨ててしまっただけで、新たにこういう所を鍛えていかないとダメかなとか。練習中も足の使い方、角度とかも含めて、どうしたらちよつとも良くなるかなとか考えながらやっています。

た。どれだけ楽しめるか、という感じでやっていました。偉そうにやっていたと思います(笑)。

—— 今年のジェフのここに注目してほしいという点を教えてください。また、昇格のために一番必要なものは何だとお考えですか？

—— 高校時代の羽生選手は、どんな選手でしたか？

羽生 うまい選手というかテクニクのある人がいい選手だと思っ

—— こんな練習が高校生へお薦めはサーカスじゃないから！

はサーカスじゃないから！」って言われて、ちよつとふざけたようなプレーをすると、とても怒られていた(笑)。見た目が派手でも、結果として何も起こせていないというプレーより、ゴールに向かうことの方が大

事。うまい高校生がいたとして、それが本場に相手にとって怖いのかどうか、自分で考えられると思うので、それができるといいかなと思います。



羽生 直剛 (はにゅう・なおたけ) 1979年(昭54)12月22日生まれ、千葉県出身の37歳。八千代高から筑波大を経て02年にジェフ入団。08～12、14～16年はFC東京、13年は期限付き移籍したヴァンフォーレ甲府でプレーした。06～08年日本代表。1m67、62km。

—— 最後に、今季の戦いへの抱負をお願いします。

羽生 個人としては試合に出ても出なくてもしっかりプレーして、クラブとしては、お金を払って見に来てくれる人が、それに見合った思いを持って帰ってもらえるように。そういう試合を多くできるように頑張っていきたいと思っています。

取材後記

練習中、37歳とは思えない軽快な動きでグラウンドを駆け回っていた羽生選手から、インタビューを通して徐々に、千葉愛を感じる事ができました。実は小学生の頃、姉崎の練習場まで足を運び、どうしても欲しかったサインを頂きました。あの時の優しい表情は今も変わらず、不慣れた私の取材にも丁寧な答えしてくれました。羽生選手のおらかな雰囲気チームをまとめ、ジェフを必ずJ1昇格へ導いてくれると信じています。

学生記者／篠原和輝(経営社会学科スポーツビジネスコース2年)

